

## (ホ)横波の振動角の観測

振動角も最初 Galitzin に依つて、後に Gutenberg に依つて観測された。其の結果は震央距離が小さい時はこの振動角は大きく $90^\circ$ 。又は $130^\circ$ に近づく。併し震央距離が400軒以上になつて行くと普通可成小さくなつて行く。そして横波の振動は殆んど縦波と同じ面に於いて起る様になると観測される。振動角も入射角同様に其の観測所の地表の地質構造に依り大いに影響を受けるので、其れ故理論から出る結果と一致する様に期待し難いのは勿論の事である。(未完)

---

 雑報
 

---

○地方測候所地震観測新設備 國庫補助による地震観測設備擴張の爲め左記測候所は夫々ウキヘルト式水平及上下動地震計、大森式地動計同簡單微動計同強震計を据付観測を開始せり、

一、濱田測候所は五月十日本臺より國富技師鷺坂技手出張し其据付を了し観測を開始せり、

一、沼津測候所及び

一、愛知縣測候所

五月二十一日和達技師佐藤技手出張し据付を了し観測を開始せり、

一、長崎測候所及び

は六月中旬本臺より國富技師石川技手出張の上据付を了し其觀測を開始せり、

一、宮崎測候所

一、高知測候所は六月二十五日和達技師鷺坂技手出張据付を了し觀測を開始せり、

一、石卷測候所仙臺出張所は廳舍新築成りて八月十二日本臺の國富技師佐藤技手出張し据付を了し觀測を開始せり、

一、本臺附屬布良測候所は新廳舍成り九月十一日國富技師により据付を完了し觀測を開始せり

一、秋田測候所は十月十五日本臺よりの國富技師鷺坂技手により据付を了し觀測を開始せり。

○アリユーション列島北部(北緯五三度五九分 西經一六八度〇一分) Bogoslof Island 噴火實見報告

日本郵船株式會社報

日本郵船會社汽船橫濱丸大正十五年八月十二日午後五時十分ウキクトリア港を發し橫濱に向け航行中同十八日午前三時二十四分 *minnak Id Scotch Cop* を  $25^{\circ}$  距離五・八哩に通過し白令海に入る正午天測に依り北緯五四度十一分西經一六七度三三分を得針路  $262^{\circ}$  に續航、同日午後〇時四四分 *Bogoslof Id* 北島を  $292^{\circ}$  に認む、零時五十分頃該島の南東方の水平線上より濛々として奔騰する雲の如く烟の如きものあり空中高く昇り其狀火山又は海中火山の噴火せるもの、如し、一時〇分北島  $274^{\circ}$  距離約一三哩の地に達し同島附近に起れる一大噴火なるを知る、一時十五分北島以南は一面の白烟を以て掩はれ南島見へず而して北島の水際より出で奔騰する白烟の中に時々猛烈なる爆發を認めしを以て *Bogoslof Id* 附近海中

の噴火又は南島の爆發ならんかと疑へり、一時二十八分噴火地點を知る可く北島 193° 距離約一〇哩の地點より 213° に轉針す、一時三十分猛烈なる爆發を認む而して之を以て終熄せるものゝ如し、やがて白煙中より南島の二峯角を認む而して徐々に全島現はる二時十五分北島 151° 距離約四哩の地點に至り南島の北部低地より白煙の上昇しつゝある事實より同地點を噴火口と推定す之より 253° に轉針豫定航路に出ず。

爆發の狀況 約每二分半乃至三分に爆發し一時より一時三十分に至る間約十回の爆發を見る而して其爆發するや上昇する白煙の上に眞黒なる一大鋸山の峯(高さ三〇〇〇呎位)を現はし瞬時にして飛散其形を失ふ、狀況頗る壯觀を極む、天候は眞西の和風にして曇天、水平線附近多少の濛氣あり午後二時四十分無電にて之を St. Paul Id 無線電信局及各艦船へ通報せり。(九月二日附報)